

【施設園芸】の【重油】対策について

<通年>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

(1) 予想される被害状況

重油等の油漏れが発生した場合、排水路などを經由し、河川や近隣の水田等への流入が考えられ、河川の汚濁や水稻等への間接・直接の影響が大きい。

また、土壌水分が高い状況で油漏れが起こると、作付している作物にも生育不良や枯死などの影響が考えられる。

施設の資材へ油が付着すると、被覆資材のビニルやポリがもろくなったり、変成することがある。

(2) 事前対策

施設栽培の場合は、重油タンクの周りに防油堤を設置し、万が一タンクが破損しても、重油を外に漏らさない対策を講じる。

施設栽培終了後は極力、タンクに重油が残らないよう給油量を調整する。

ほ場内に漏れた油が侵入しないよう、普段から側溝等の整備を実施する。

(3) 事後対策

【施設対策】

- ビニル・ポリにかかわらず油で変成しもろくなっているため破棄する必要がある。
- ハウスの鉄骨にも重油が付着しておりこの上にビニル等を展張すると、新しいビニルが変成することから、鉄骨の重油は除去する。
- 除去方法は、家庭用洗剤で拭き取るか、家庭用洗剤を希釈し霧吹きで吹き付けた後(日が経つにつれ除去し難くなるので事前に濃度検査をする)、動噴で洗い流す。
- ジェットスチーム(高圧洗浄機)で水を吹き付けても除去できると見込まれるが、大量の水がほ場に入ることになり土壌乾燥が進まないのが良くないと考える。
- 鉄骨の油分の除去には、膨大な労力が必要となることから、少なくとも、谷部、ビニペット部は必ず除去し、その他の鉄骨も確認できる油分は除去しておく必要がある。
- 漏れた重油量が少ない場合は、土壌中の微生物により分解されて、作物に対する影響が少ないが、大量の重油が漏れた場合は、影響が長期化するため、土壌を除去して適正に処理する。
- 重油が漏れたほ場で栽培された農産物からの重油臭の有無を確認する。